

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

百人一首で覚える助動詞①

不確定な助動詞・推量・推定・意志・反実仮想

① (03) あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む(推量・連体形)
私も一人わびしく寝るのだらうかなあ② (16) たちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとしきかばいま帰りこむ(意志・終止形)
すぐに帰ってきましょう③ (67) 春の夜のゆめばかりなる手枕にかひなく立たむ名こそ惜しけれ(婉曲・連体形)
甲斐なく立つような浮き名は残念なことだ④ (33) ひさかたのひかりのどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ(原因推量・連体形)
どうして落ちて着いた心もなく、桜の花は散り急ぐのであろうか⑤ (36) 夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ(現在推量・連体形)
雲のどのあたりに月は宿っているのだらうか⑥ (02) 春すぎて夏来にけらし白妙のころもほすてふ天のかぐ山(推定・終止形)
夏が来たらしい⑦ (44) 逢ふことの絶えてしなくはなかなか人に身を恨みざらまし(反実仮想・終止形)
もしあなたに逢わなかったら、かえってあなたを恨んだり、じぶんの不幸を嘆いたりしなかったらうに⑧ (68) 心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな(推量・連体形)
きっと恋しく思うだらう⑨ (45) あはれともいふべき人はおもほえて身のいたづらになりぬべきかな
(当然・連体形 推量・連体形)
いってくれそうな人 むなしく死んでしまうことだらうよ⑩ (34) 誰をかもしる人にせむ高砂の松もむかしの友ならなくに(適当・連体形)
誰を親しいともしたらよいのか